

★現代中国の複雑性の理解がこれまでになく重要＝ケリー・ブラウン

2021年は中華人民共和国にとって大変重要な年になります。中頃には中国共産党創立100周年を迎えます。また、100周年の目標にされてきた小康社会の実現を祝います。7月にむけてすでに多くの計画が進行しており、少なくとも中国国内では、多くのことが起こっているのでしょう。

悲惨な年

しかし国際的には、2020年は中国にとって辛い年でした。新型コロナウイルスが襲い世界に広がると、外交のトーンは一変しました。その一部はトランプ大統領のせいです。2017年以降、彼は国際問題に型破りなアプローチを持ち込み、言葉を使いました。この新しい「攻勢」を受けたのは中国だけではありません。ヨーロッパ諸国なども、安全保障への財政支出が少ないとってトランプから叱責を受けました。しかし中国は、2018年以降の通商面の緊張で、トランプとポンペオ国務長官から特別の標的にされました。

2020年は各国がパンデミックに苦しむにつれて、非難に続いて欲求不満と怒りが沸騰し始めました。昨年まさに怒りの年になったといえるでしょう。バイデン政権が1月からスタートしたことで、他の面はともかく、少なくともトーンの面では、米国外交は変わりそうです。

バイデンは自分の考えや態度を、トランプのようなやり方で表明していないし、またしないでしょう。この事実だけでも希望になります。物事は魔法のように変わらないにしても、米中は対話の相手になり、これまでよりも穏やかになって予測可能になるに違いありません。現在の状況の下では、それは決してたやすい芸当ではありません。

中国は2020年に多くの課題に直面しました。世界から注目が集まったし、中国が世界規模に拡張していることがこれまでになく明白になりました。2020年4月から2020年5月にかけて、中国はウイルスが特に深刻な影響を与えているヨーロッパや他の地域に個人用の防護装置を送りました。これは国家による肯定的で善意の意図からでた行動でしたが、疑念をよぶこともありました。時にはあからさまな敵意にも合いました。米国や他の諸国からの批判に対して複数の中国側スポークスマンが行った対応も激烈なものでした。一時はソーシャルメディアが仮想の戦場に利用され、言葉が武器になりました。

癒しの時

2020年に明らかになった一つのこと、中国外交は注意を払う必要があります。それは米国やオーストラリアなどで、これまで中国についてあまり考えたことがなかった多くの人々が、今や中国が重要な国であり、自分たちの生活へ直接的な影響を及ぼしていると思うようになったことです。これらの人々の多くにとって、中国の歴史や文化、言語、国情に関する知識と理解は限られたものです。中国の重要性は高まっていたけれど、いままではあまり真剣に考える必要はなかった。2020年になって、いよいよその時がきたのです。

多くの人々は、主に西欧の政治家たちが使う言葉に影響をうけます。これらの言葉は通常、特定の政治家たちが政治的な目的から発信するものです。2020年の国際情勢が複雑であることを認識している政治家もいますが、他の人々は相手の損は自分の得とばかりにゼロサムの非難合戦に熱中しています。それは政治家が自分の立場を失わないようにするためなのです。中国はもともと標的になりやすい。このような状況で、中国と外部世界との全体的な対話が弱まったのは驚くにあたりません。2021年はその傷を癒す年にしなければなりません。

西側には、中国についての基礎知識を理解するためにしなければならないことがたくさんあります。いま中国は世界のGDPの16%を占め、今後10年間で世界最大の経済大国になると多くの人々が思っていますが、中国についての基礎的なレベルの知識が不十分なままです。なので中国は理解の及ばぬとても恐ろしい国だという単純化された見方が定着します。こうした記述のなかには、その後、本当に厄介な人種的固定概念に歪められ、ひどい結果になったものもあります。西側の指導者には、中国の外交に不満を抱き、憤りを覚えるもっともな理由があるかもしれませんが、彼らの苛立ちが国民全体の敵意や反感を生み出すことのないようにしなければなりません。これこそが彼らの責任です。

中国にとっても自国についての教育支援が引き続き優先事項になります。つまり2020年には（外部からさまざまな）疑惑が投げかけられ、拒絶をうけたけれど、人と人とのつながりを後押しし、西洋の人々に現代中国の現実と、何よりもその複雑さを広く知ってもらう方策を見つけることが必要です。このようなアプローチをとれば、中国が直面する問題の複雑さをある程度認めてもらうことができるでしょうし、中国を西側の絶対的な対立物と位置付ける単純きわまるイメージを払拭するのに役立ちます。おそらく、この措置はむずかしく時間と労力を要するでしょう。また必ずしもたやすく目に見える結果につながるとは限りません。にもかかわらず、中国が世界大国としての可能性をどのよう

に実現できるのかを、それをやっているときに理解するのはむづかしいのです。海外の観客たちは、問題の重要性を把握するどころか、中国が何を言っているのかを理解することさえできないのです。

ソフトパワー

中国外交は、現在の状況がだれにとってもいかに複雑であるかを認めさせることに戻込みすべきではありません。少なくとも主張すべきです。新興国とみなされるやり方や、公衆衛生から環境に至るまでパートナーシップが重要な分野では、なんらかのニュアンスの違いを受け入れるという主張が必要です。中国の指導者が必要としているのは、トランプ大統領が当たり前ではなかったし、これからもないとい保障です。政策立案者も一般の人々も、中国国内からその理由を聞けば、ニュアンスの必要性を認識する可能性が高いのです。

言論戦は、現在、中国の戦場ではありません。経済とは異なり、中国のソフトパワーはまだ（西側に）はるかに及びません。今日の欧米社会では多様性が強調されているのに、主流メディアは中国に対して非常に統一された見解を持っているようです。離散家族を含めて人類の5分の1が本物の声を欠いているのは不思議です。欧米のメディアでは、何十億もの個々の物語がGDPの数字や地政学的問題にまで変えられてしまうことがしばしばです。中国は自分が誤解されていると感じれば感じるほど身構えるのです。これは長期的に中国のためになりません。

中国のスポークスマンは、代わりに優しい国柄とおもてなしの精神、そして心を開いて（他国を）受け入れる意欲をみせる必要があります。欧米の政治家やメディアをいくら非難しても、中国国境を越えて目標の聴衆に知識は伝わらないのです。中国に関する教育を外部に施す責任は中国にかかっています。新華社、CGTN、孔子研究所のような既存のチャンネルとは別に、民間部門からより多くの努力が必要です。

これらは劇的な対策ではありません。そして、ハードで忍耐強い仕事を伴います。多くのスポークスマンや市民がそうであるように、中国がしばしば誤解され誤って特徴づけられれば、イライラします。しかし悲しいかな、これは新興国がますます目立つ存在になっていることの副作用なのです。少なくとも世界に発信されることで、より多くの人々がその役割を理解し、なぜその役割が重要なのかを理解します。肝心なことは、人々が性急に結論をだすことをやめさせることです。

ですから 2021 年はニュアンスが大事になります。厳格さの時代に、これをめざすのは悪いことではありません。

(翻訳 田中靖宏)

- ◆北京週報 1 月 7 日付けから、原版タイトル「ニュアンスの理解」
- ◆ケリー・ブラウン＝英国の中国問題専門家。ロンドン大学キングス・カレッジ教授、ラウ中国研究所長